

## 2013 年西之島噴火による新たな島の形成・拡大について（第三報）

2013 年 11 月 20 日 10 時 20 分頃に海上自衛隊機により西之島の南東約 500m の海上で確認された噴火は、同日 16 時 17 分頃には新たな島の形成が確認された。その後も噴火は継続し、新たな島の面積は拡大を続けた。

国土地理院は、2013 年 12 月 4 日、17 日に空中写真を撮影、それぞれ地形判読図を作成した。その後、2014 年に入って 2 月 16 日に 3 回目の空中写真撮影を行い、17 日に写真判読、18 日に地形判読図を作成し、以下のことが判明した。

- ① 新たな島は、西、北、北東、南西方向への溶岩流の流下により、元の西之島よりも大きく成長し西之島に接合した。
- ② 火砕丘を形成している火口が新たな陸域の東南部に 2 つあり、噴煙を盛んに上げて活動している。このうち、南側の火砕丘は 2013 年 12 月 17 日撮影の空中写真に写っており、山頂火口もほぼ同じ位置にある。
- ③ 火砕丘のうち、南側のものの西縁に火口（溶岩噴出口）があり、北側、次いで南側に溶岩流を大量に流下させて、二つの火砕丘の周囲を溶岩流で埋め尽くした。この火口（溶岩噴出口）も 2013 年 12 月 17 日撮影の空中写真にも写っており、この間、溶岩流の噴出がほぼ同じ場所から継続的に続いていたことが分かった。
- ④ 南側の火砕丘の東中腹にも火口（溶岩噴出口）があり、小規模な溶岩流を噴出している。
- ⑤ 新たな陸域と元の西之島が接合した海岸部において砂州が成長し、特に元の西之島北東海岸の砂州が海側に広がっている。